

2025WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 7 (7/26)

7月26日(土)

U23世界選手権4日目。U23日本代表チームとして最後のレースとなるBM1xのFinal Cが行われました。

準備万端で出艇しようとしたところで、審判員から出艇を待つように指示があり、その後レースが1時間遅れることと5分間隔にスケジュール変更になることがアナウンスされました。

スケジュール変更の理由は、水草の除去のためとのことで、水上ではモーター総出で水草の除去を行っていただきました。選手たちが力を発揮するための環境を整えてくださった地元スタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。



沢山のモーターで水草の除去を行っていただきました。



チーム総出で見送られ水上に繰り出すBM1x永坂選手(東レ滋賀)。

BM1x Final C

スタートから水が開かない展開の中、日本は3~5位に位置取り上位を伺う。その後、スロベニアとスイスが徐々に抜け出し、ニュージーランドが続き、さらに日本とオーストリアがそれを追いかける展開になってきた。日本は中盤もオーストリアとほぼ並ぶように進みながらひとつ前に行くニュージーランドに食らいつく。第3クォーターでは僅かながらも6か国中1番のラップタイムで、オーストリアをわずかにかわし4位で1500mを通過。そしてラストクォーター、力を振り絞りスパートするも他国も譲らず5位でゴール。参加国数が最も多いBM1x(28か国)において全体17位で大会を締めくくった。



ゴール前、ニュージーランド(中)とオーストリア(手前)とデッドヒートを繰り広げるBM1x永坂選手(東レ滋賀)。



グランドスタンドの最上階だけはチケットがなくても入ることができ、大会の決勝レースを観戦しました。

ゴール前まで大混戦の激しいレースが多く、このような舞台に日本の選手たちが主役として立ってもらいたいと改めて思いました。

また、観客席で自国の名前を叫びながら応援する人々。表彰式で誇らしげに国家を歌う人々。とても眩しかったです。日本のローイングファミリーで、このような感動を分かち合うことができる日が来ることを心より願っております。

BM1xのFinal Cのレースをもって、2025年U23世界選手権日本代表チームのレースは全て終了いたしました。

日本との時差7時間の中、深夜までご声援いただいた皆様、また現地でご声援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

選手たちは、この大会に向けたトレーニングから大会期間までを通し、かけがえのない経験という宝を得ることが出来たと思います。その経験は、努力を積み重ね思いきり力を出し切った結果で得たものなので、結果と共に受け止めることにもなり今はつらい記憶になることもあるかもしれませんが、今後の競技人生やその後にしっかりと生きてくるものですので、大切にしていきたいと思っております。

最後に今回の遠征にご協力いただいた全ての皆さまに心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

「ご声援ありがとうございました」

～2025年U23世界選手権日本代表選手団一同～



後列左より、上野翔子(コーチ)、佐橋健太郎(サポートコーチ)、野村幸史(トレーナー)、中上仰(チームリーダー)

前列左より、BW2x浅井奏音(新貞山RC)、BW2x清水空(関西電力)、BM2x川上拓海(早稲田大学)、BM2x石井大和(日本大学)、BM1x永坂日鼓(東レ滋賀)